

この山吹の花、実は今回の演奏会の為に竹下先生が書き下ろしで作曲された「山吹のかをり」のタイトルにもなっています。

オカリナ3本とリコーダー3本のアンサンブルの為に書かれたこの作品は、檜原村の自然とそこに暮らす人々の暖かさが滲み出る、一度聴いたら忘れられない素晴らしい作品です。

ところが”メロディーの郷愁”はひしひしと感じつつも、実際の山吹の花は見たことがなかった私たち。

「それは問題だ！」と、なんと坂本村長が直々に、私たちを檜原村山吹ツアーに連れて行ってくださいました。

伺った4月の終わりは、春の植物を観るのに絶好の季節で、山の新緑の萌黄色と山吹色のコントラストがとても美しく感じられました。

この日はちょうど雨上がりだった為、少し残る雨粒の乱反射も、一層その色を引き立てていたように思います。

本物の「山吹のかをり」を初めて味わうことので来た瞬間でした。



春のこの時期、檜原村には道にも庭にも、たくさんの山吹の花が咲いています。

色鉛筆の名前にあった山吹色って、本物はこんなに鮮やかな色なのですね！

しばらく進んだ後、車を降りて山吹を見せていただいたのは、山の小径を進んだ先にある、素敵な木造の建物の近く。

ここはフジの森という保護・管理された森で、その建物は「檜原野外音楽堂」という木造ロジと舞台なのだそうです。能の舞台のような木造屋根付き・総ヒノキ張りのステージに、山の斜面を利用した天然の客席はとても風情があり、ここで音楽が奏でられることをイメージすると非常に興奮しました！

またこの場所は、演劇やコンサートをするというだけでなく、自然とのふれあい体験や地域住民との交流の”拠点”となっており、ピザ焼きや薪割りの体験やハイキングなど様々な活動を展開しています。